

# 四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

## 談話室 Vol. 93

### 美しく豊かな安田川の清流を保全 —「日本一のアユが棲むまち」—安田町

高知県 安田町長

ありおか まさみ  
**有岡 正幹**



安田町は、高知県の東部に位置し、県都高知市から車で約1時間20分、50kmの距離にあって、東西約4.2km、南北約12.5kmと細長い形をしており、総面積53.03km<sup>2</sup>で、三方を四国山脈から分岐する急峻な山岳に囲まれ、南部の山裾は海岸段丘を形成して、黒潮あらい太平洋に面し、町の中央部を南北に安田川が貫流し、その下流域部に広がる清流のまちです。

下流の平野部は、温暖な気候と自然環境に恵まれ、野菜園芸発祥の地として発展し、ナスやミョウガなどが盛んに栽培されています。また、先人の技術を活用した土佐湾を背景とした定置網、一本釣り等の沿岸漁業などの一次産業と、清らかな安田川の伏流水を活用しての醸造業、魚梁瀬杉を生かした製材業等の二次産業が主要を占める商工業の町でもあります。

観光面では、四国霊場27番札所神峯寺を始め神峯神社や神峯山空と海の展望公園、ほたるの里河川公園・花と香りの広場、安田川アユおどる清流キャンプ場といった施設も人気を呼んでいます。

中でも、安田川アユおどる清流キャンプ場は、人と川、人と自然、人と水に棲む生物がふれ合うことができるキャンプ場として好評であり、平成15年には、四国地方整備局による河川や渓谷、滝などの四国のみずべ八十八カ所に、「鮎おどる清流キャンプ場のみずべ」として選ばれ、シーズンには大勢のキャンパーで賑わっています。

特に、町の自慢である安田川は、馬路村に源を発し、ダムのないそのままの自然が残る清流として知られています。水の透明度も高く水底には多種多様な藻類が付着しているため、それを食べる鮎や川魚は美しく元気に育ち、味も良く身がしまっていると好評で、鮎漁の解禁日には友釣り、餌釣り、太公望が腕を振るいにやって来ます。

アユについては、全国規模で開かれている「清流めぐり利き鮎会」で、県内外の数々の有名参加河川を抑え、2度のグランプリを受賞するなど、その味には定評があります。

こうした自然環境を守っていくため、私たちは、その一つである清流を後世に引き継いで行くため、平成15年度に「安田川の清流が失われつつある今、私たちの共有財産である美しく豊かな安田川を保全していくことは、現在に生きる私たちの責務であり、そのため、川底までよく見える川、鮎、アメゴ、メダカなどの天然魚が豊富に生息している川、美しい景観が保たれ、住民の生活環境と調和している川」を守り育むことを基本理念に安田川清流保全条例を設け、上流の馬路村とともに毎年「安田川水系資源保護推進協議会」を開催し、川に対する清流保全の看板設置を安田川を美しくする町民会議等を中心に設置するなど、官民一体となって河川環境の保全と水質向上を図るための取り組みを行っています。



第1回利きアユ大会グランプリ賞状



アユのモニュメント（国道55号沿い）



安田川アユおどる清流キャンプ場